

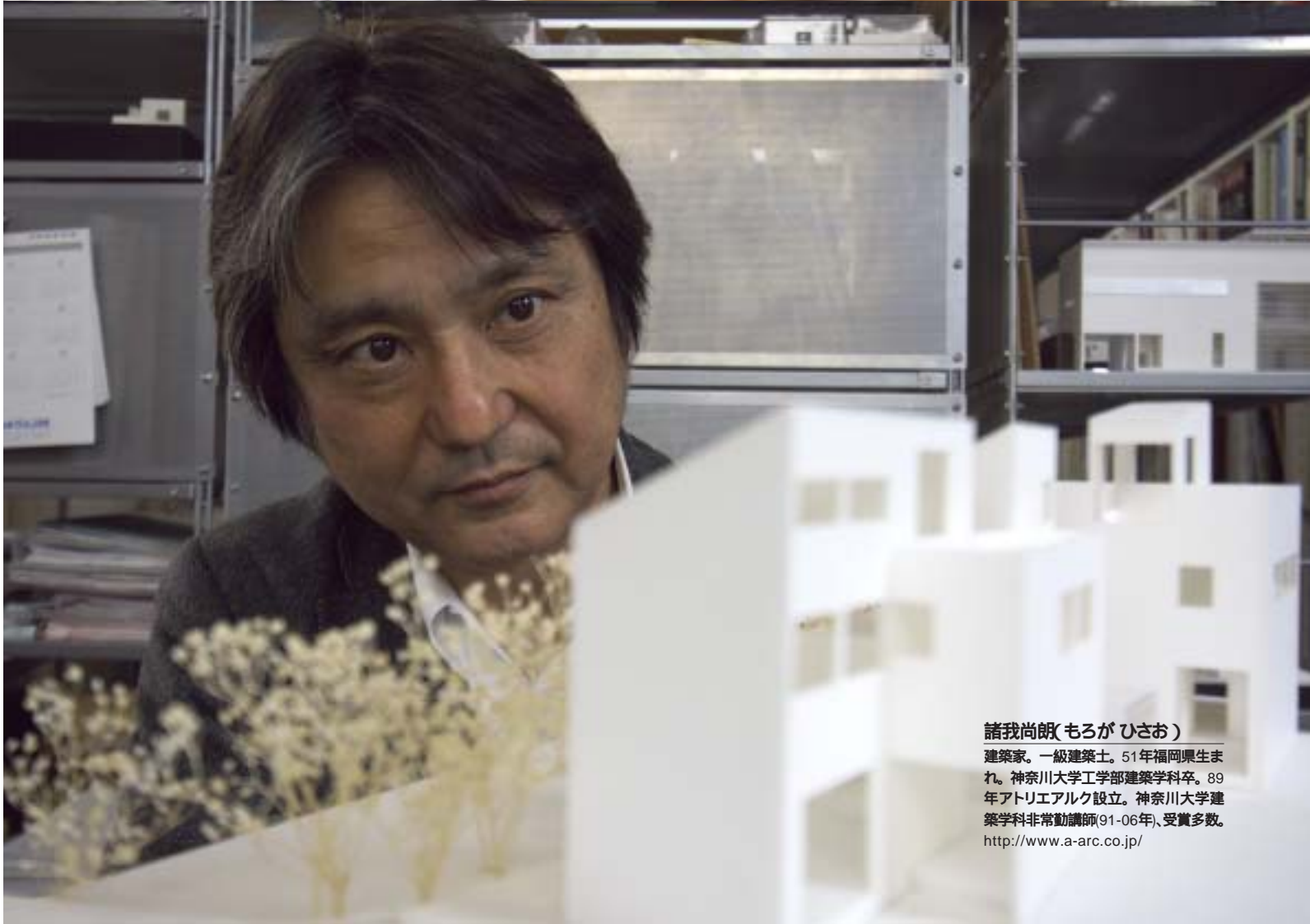
注文住宅を越える、デザインの「解」

諸我スタンダード

100余の、すべてがレアケースな注文住宅デザインを通じて、逆説的に見えてきた真の普遍「スタンダード」。それを活かした「提案型（建売り）分譲住宅」を世に問う。顧客利益を最大化、かれらの生活習慣すら改善すべく。

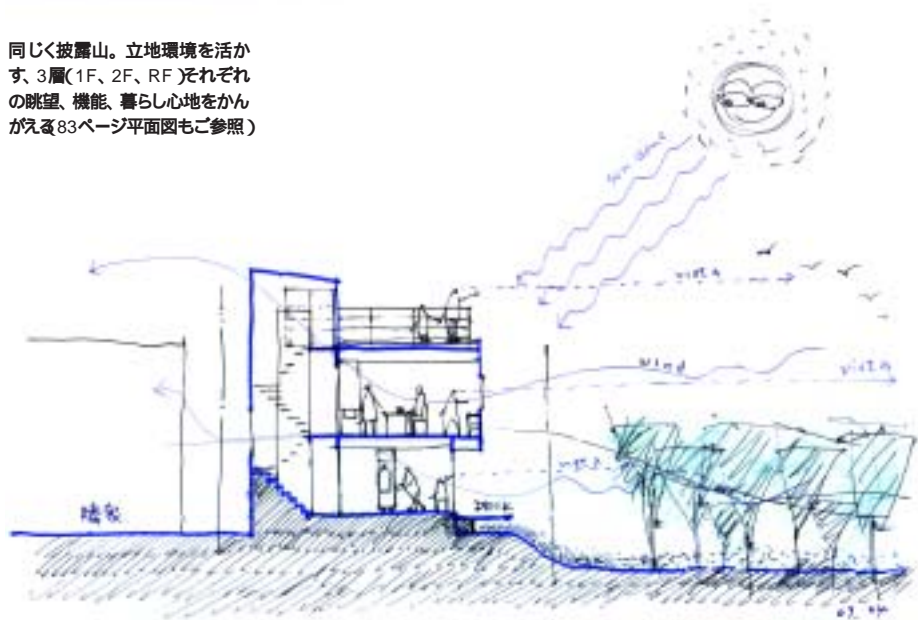
取材・構成・文 | TOKO
edit by TOKO
撮影 | 滝口保
photo by TAKI

披霧山グリーンハウスのプランを練る。「Cube」躯体とし、2Fにパノラマウインドウ、ルーフに広いバルコニーを



諸我尚哉（もろがひさお）
建築家。一級建築士。51年福岡県生まれ。神奈川大学工学部建築学科卒。89年アトリエアルク設立。神奈川大学建築学科非常勤講師(91-06年)、受賞多数。
<http://www.a-arc.co.jp/>

同じく披霧山。立地環境を活かす、3層(1F、2F、RF)それぞれの眺望、機能、暮らし心地をかんがえる83ページ平面図もご参照)



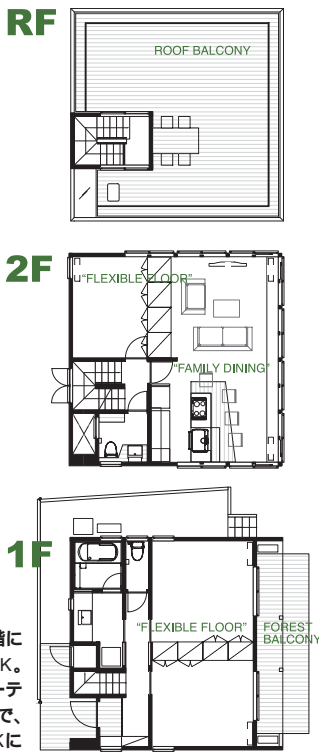
建築家は少年時代、いくつかの住環境に出会った。それらは色彩にあふれていた。幼児期、2年間を沖縄首里で過ごした。碧い海、透明な空、水晶のような白砂、深紅の花、そして錆色。50年代、沖縄は返還前で、大戦の傷跡もなまなましく残っていた。夢のようなラグーンに、旧日本軍の船が座礁し、錆び、朽ちていた。洞穴には、白骨こそなかったものの、腐った銃剣が残っていた。生と死のコントラスト、光りが強いほど、影も濃く落ちる。そして白。切妻屋根、白ベニキの板張り、白い家具の米軍のそのような住宅に暮らし。それは、自然とどこかつながり、風と陽光がとどく、こちよ「環境」だった。家族は横浜に越す。そこは灰色、高度成長期の、京浜工業地帯が吐きだす煤煙が、少年を小児喘息にした。転地療養のため、家族で葉山に。一色の御用邸ちかく、往時でも珍しい茅葺き屋根の一軒家。そこは緑、沖縄とは違った海の藍、たそがれ、黄金に光る海面、そして茅の匂い。エアコンなどなかったが、肌を撫でる海風が心地よかった。葉山中学時代は、医者には止められたが、サッカーに打ち込み、喘息を自力で治した。追浜高校ではレフトウイングFWとして県大会でベスト8に。

60年代の終わり、日本は急激に変わっていた。砂浜は埋め立てられ、コンクリートで固められた。それぞれが個性的だった木造の校舎は取り壊され、全国どこでも同じようなRC造のそれに建て替えられた。住宅もしかり、効率だけを重視した灰色の団地群……。諸我は高校生だったが、公害に苦しんだ経験からも、自分なりの自然観もち、高度成長下の日本に、違和感不自然さ をかんじた。近代化して盲従していいのかわからない。「住」、陽も風もとどかない。それを他者にも問おうと、街の不自然さを写真に残そうとしたがうまくゆかない。写真は現実が映るものだと思っていたが、そう単純ではなかった。葉山から離れたくなく、神奈川大学の建築学科に進む。現実的なモノとして社会のストックになる建築によって、微力でも社会参加し、変えられればと思った。工学的側面は建築の一部で、社会や人間も分からねばならない。大学では工学しか学べないのではと危惧したが、神大の教育は建築士養成のなそれではなく、グラウンドデザインコンベンなど創造的実戦的で、自治的。教室は24時間開かれ、学友たちと自炊しながら泊まり込みで製作したりと、楽しく、実り多いものだった。学生運動の熾火が残っていた時代で、自治的な教室をロククアウトしようとした「お上」が許せず、ノンセクトな

から抵抗、機動隊に頭を割られ大出血したことも。それは余談だが、体制に盲従しない氏を語っている。卒業制作にもそれはいえて、当時、横浜の金沢八景、野島周辺の開発計画埋め立て、モノレール、団地、人工海浜、遊園地…… は決定していたが、諸我は、自然の砂浜や、芝浜漁港を残し、埋め立てが必要ないモノレールではなく海上交通、遊園地ではなく大戦の遺構（ゼロ戦を隠した野島の洞窟など）を美術館に、小学校をオープンスクール化、環境親和性の高い住宅……などの提案をした。社会的コストが低く、お上のプランへのアンチテーゼでもあった。75年卒業、オイルショック直後で、建築家のアトリエ的事務所を希望したが求人がなく、地方自治体の公共建築を手がける組織事務所「潜り込んだ」海老名市図書館、松本市総合福祉センター、茅ヶ崎の市民会館、千葉工大キヤンパスなど多数手がけたが、11年勤め、退社。計画面積2万5000㎡など仕事は大きかったが、隔靴搔痒感をぬぐえなかった。分業で、設計担当という歯車に過ぎず、現場や、ユーザーの肉声が聞けなかった。もつといえ、ある意味ユーザーはいなかった。それらは、自治体トップの「実績」を誇るモニュメントの意味あいが大きく、市井の人々の生活に根ざしていなかった。

「人間ってこんなに違うのか」
100の注文住宅デザインを通じて、
100種のユニークな生活観に出会った。

剛床構造により、防水層に応力負担をかけないので、木造ながら、ルーフ全面をバルコニーに。布団干しも家事ではなく遊びに



1階にワンルーム、2階にLDKの、じつに1LDK。大収納移動家具でパーティションを作ること、簡単に、2LDK、3LDKに

example 01
SUMiZ披露山グリーンハウス

JR逗子駅徒歩25分、バス停すら遠い。無難な提案しかしないディベロッパーなら見向きもしないロケーションだが、南に披露山の森が自り、東は原生の雑木林、その向こうに三浦の山稜、北の隣地は離れ、間に豊かな植生。「下界」からある種隔絶された生活リゾート、たとえば在宅勤務で自然志向の方にとって、これほど上質な住環境はない。しかし、ただの都市型住宅を建ててしまえば、機能、魅力とも半減。この環境を最大限に活かす「グリーンハウス」とした。たとえば、「Family Dining」がリビングと連続する2Fには、北東南3面にわたるパノラマウィンドウを。さらには、剛床構造により、木造ながら広々としたルーフバルコニーを実現した。RFを除く延べ床面積は110㎡だが、1LDK。しかし、大収納移動家具によりパーティションをつくることで、1Fを2部屋に、2Fに個室を追加し、かんたんに2LDK、3LDKにできる「Flexible Floor」としている。

それ以上勤務すれば中間管理職になって、ますます「現場」から離れてしまふという危惧もあった。建築家として、個人住宅を手がけていないことにもジレンマを感じていた。施主の肉声を聞き、仕舞いや納めのひとつひとつを確認し、土地選びから竣工後のケアまで引き請け、責任を負い、すべてをコントロールし、血が通った仕事をしたいと思った。

先輩の事務所へ転職、民間の商業建築や、集合、戸建て住宅を手がけるようになった。申請や施工監理や、雑務にも追われたが、担当した、ある個人住宅が、神奈川県建築コンクール最優秀賞を受け、以降、名指しで設計依頼をもらうようになった。

そして89年、38歳で独立、41歳のとき横浜、山下公園近くに、「アトリエアルク」を設立、現在に至る。仕事は多岐にわたるが、戸建て住宅が多く、注文住宅実績だけで100棟を越える。

注文住宅だけで、とことわったのは、それが今回のテーマであり、具体は後述するが、近年、提案型（建売り）（分譲住宅設計の比率が増えているからである。

住宅業界は保守的で、建売り戸建ての場合、4LDK、階高270cm、出窓必須……などといった「常識」にとられ、実際そういう物件がほとんど。サッシュ枠の素材や色ひとつとっても

誰かが「冒険」するまでずっとアルミ製でブラウンだった。しかし、諸君が手がけた100を越える注文住宅において、「常識」を希望したクライアントは皆無だった。

「人間ってこんなに違うのか」諸君は、100の設計を通じて、100種のユニークな生活観に出会った。同時に、百様のなかにも、ある普遍性も見えてきた。そしてそれは、住宅設計の「常識」や流行ではなく、真のスタンダードになりえる、と、建築家は確信した。

諸君は、3年前から、横浜を拠点とするディベロッパーとコラボし、「SUMiZ」というブランド名で、湘南、横浜地区に、年間10棟前後の住宅を手がけている。ディベロッパーが建築家を起用することとはよくあるが、多くの場合監督程度SUMiZの場合、諸君は、企画、敷地の選定から施工監理まで一貫して関わり、その設計力と、ディベロッパーならではの資金力、建材の一括仕入れや施工品質などとのシナジーによって、商品力の商品力と顧客利益（コストパフォーマンス）を高めている。

SUMiZとして注文住宅も請けるが、先述のとおり、提案型（建売り）分譲住宅も多い。「そのほう（提案型）が、ある意味、注文住宅以上に、共感と満足を得ていただけるんです」



2Fは「Family Dining」とそれに続くリビング、北東南3面にまたがるパノラマウィンドウを設け、環境を享受する



上立地環境とハウスデザインのシナジーによって生活そのものがリゾートに。これほど贅沢な（そして経済的な）ことがあるのか。左オーナーは注文住宅も考えていたが、この物件を見た瞬間購入を決めた。イメージしていた理想以上の「解」がそこにあった



住宅業界は保守的で、建売り戸建ての場合、4LDK、階高270cm、出窓必須……などといった「常識」にとられ、実際そういう物件がほとんど。サッシュ枠の素材や色ひとつとっても

提案型分譲なら、施工固有の追加条件がなく、自由に、最適な、真のスタンダードたる「解」を追求できる。

7月初旬の竣工を目ざし、3棟の家族と、この街が共有することになる、自然石と植栽のランドスケープ(=ピオトープ)施工中



"Family Dining"からリビングへと続く"Flexible Floor"。アイランドテーブル、キッチントップ、および写真背後に位置するサニタリーカウンターは花崗岩。アイランドにはHクッカーと換気扇(床下排気)、キッチンには食洗機がビルドインされる



上アプローチと、B棟C棟間の植栽プラン。この「自然」が、3棟の敷地を分割するのではなく、連続、共有させるスケッチは設計担当芸家・湊眞人氏(株式会社・耕水)下自然石貼り、雑木林の敷地に3棟、それらはまとまった1棟にもみえる。アプローチはいい意味で曖昧で、それが住人を寛がせる



この物件は販売中です。
問い合わせ / セレクトハウス スマイズ
☎0120-088-998
<http://www.select-house.jp/sumiz/>

example 02
SUMiZ 鶴沼ピオトープ

古き住き湘南の住環境を今にひき継ぐ鶴沼松が岡。小田急の線路で行き止まり、通過交通もないプライベートプロパティに立地する。この地に、昔から在るように溶けこみ、それだけではなく、新しい、なんらかの価値を提供するにはどうすればいいか?

住宅は「環境」家族の暮らしを育むためのそれと、街に対するそれがある。環境を実現するため、建築家は造園家。いわば、外と内をつなぐ環境作家を起用、セッションした。

この物件は3棟プロジェクトだが、敷地を柵などによって3分割せず、境界は分かるが、ランドスケープを感覚的に共有、開放的に。その全面にイタリア産トラバーチンなど自然石を張り、植栽は、縦に伸びて空間を塞がず、姿良く、メンテコストが低いハナミズキやシャラ、シマトネリコなどを。

3棟だが、それらは、自然石の、モダンな林の庭に建った、まとまったひとつでもあるような印象を与え、そこに住まう人にとっても、町の「ストック」としても上質に。

それぞれの棟は、「Family Dining」(カウンターテーブル、キッチンカウンターは自然石)や、「Airy」など、もちろん「スタンダード」。

なぜ?

注文住宅の場合、施主の要望に伝える必要がある。むろん、ただ伝えるのではなく、次元を高めた「解」を提案するのが建築家の仕事なのだが、それにしてモデザインはある種制限される。対し、デザインの時点で施主がいない提案型分譲なら、施工固有の追加条件がなくなり、自由に、最適な、真のスタンダードたる「解」を追求できる。

万人受けはしない。住宅においてはそれはありえない。施工固有の事情、家族構成、予算、価値観、生活観はそれぞれ違う。

100%ではないが、10%、場合によっては1%かも知れないが、必ず、これだ、と目を開かれる顧客がいて、買っただけ、注文住宅以上に、これらの生活にフィットし、さらにはその生活そのものを啓蒙し、健康的で自然なものに変えうる。それが「真のスタンダード」である。具体的には、

「Environment」……立地環境選択(提案)に始まり、その自然・社会的環境を徹底的に読み、そこに最適化された「解」をカタチにする。当然の仕事ではあるが、その達成レベルを高める。

「Cost Performance」……一般的な建売りの10%増し程度の価格に抑える。

「Public Privacy」……複数棟プロジェクトの場合、「個」と同等以上に「集合」としてのデザインに留意し、両者の魅力を相乗的に高める。建材の一括仕入れや施工効率によってコストを抑え、そのぶん住宅設備など顧客利益に還元する。(以上3項は「ディベロップ」のコーポラだから成しうる)

「Code」……躯体は、シンプルな立方体を基本とする。容積効率が高く、壁量や工数が抑えられるので、余計なコストがかかりにくい。シンプルな構造ゆえに堅牢で、さらに剛床構造や筋交いを採用することにより、木造ながら高い耐震性をもち、防水層に応力負担をかけないので(木造なのに)ルーフ全面をバルコニーにすることも可能

「Flexible Floor」……こまかく「間取らず」連続させ、広げる。家族なのだから、プライバシーはある程度確保できればよく、互いの気配を感じられる方がよい。

「間取る」ことによるデッドスペースをなくし、空間にマルチな機能、いわば抱擁性を与えることにより、限られた100のフロアを、150、200と活かす。

さらには、大収納可動家具によって簡単に個室を設ける、スケルトン構造により壁を一枚張るだけで、ワンルームを2個室に、といった易リフォーム性などによって、ライフスタイルの変化にも柔軟に対応する。

「Airy」……住宅は、シェルターであり、かつ、自然に対して「開き」、風や陽光の恩恵をうける装置でもある。フォーミング断熱材や、ペアガラスサッシなどにより、空調効率を高める優れた断熱性をもち、かつ開放性を高め、内と外を連続させる。都市型住宅でも、木のルーバー等によってプライバシーを保つ、バルコニーをつくり、「空」を手に入れ、そこを、屋外ではなく、エアリーな居住空間とする。

「Family Dining」……生活の基本は「食」、キッチン、お母さんだと思つたオープンキッチンプランとし、大きなカウンターテーブルを造り付け、IHクッカーをビルドインする。(だからダイニングテーブルは不要)

つまり調理中のお母さんが背を向けない。夕餉を待ちながら、子どもはカウンターテーブルで宿題をし、会社から帰ったお父さんが夕刊を読む。炊事は家事労働ではなく、家族の憩いの時間となる。

「Reason」……キッチン、サニタリーは既製品ではなく製作。独ミレ社製などの食洗機、ドラム型洗濯機をビルドインするが、それらは「セルストーク」ではなく、ゆったりしたカウンタースペースを確保し、「食」を囲みにする。朝、二人並んでもゆったり洗面できるなど、快適な生活を実現するため。